

I. 導入

おはようございます。現在のトルコの地図を見ると、国の南部、シリアとの国境付近にハタイ県があります。今はアンタキヤと呼ばれる古代都市アンティオキアは、そこにあります。ローマ帝国の時代、アンティオキアは商業の中心地であり、人口は50万人に上ったそうです。しかし現在、町の規模はかなり縮小しています。



初代教会の時代、アンティオキアはクリスチャンのおもな活動拠点となりました。使徒言行録から、アンティオキアの教会が、パウロの伝道旅行の出発点であったことがわかります。教会伝承によると、紀元47-54年頃、ペトロはアンティオキアに住み、洞窟でみことばを宣べ伝えたと言われていています。この場所は、今では聖ペテロの洞窟教会として知られています。これは、洞窟内部の写真です。このような場所でペトロやパウロのメッセージを聞き、賛美とともに歌うのを想像してみてください。きっと素晴らしい体験だろうと思います。



では、この地図を見てください。これは、シルクロードゲームの地図です。この地図では、シルクロードの主なルートは中国の長安（西安）とアンティオキアを結んでいます。紀元前200年ごろから約1,000年もの間、シルクロードはアジアとアフリカ、ヨーロッパを結ぶ主要交易路でした。1,000年以上も、物品や思想がこの交易路を介して行き来したのです。その後、紀元1,400年ごろ、モンゴル帝国の弱体化とともにシルクロードの旅は危険になっていきました。



アンティオキアの教会は、宣教師を送り出す場所としては理想的な場所でした。パウロやバルナバを始め、無数の宣教師がアンティオキアから送り出されました。キリスト教はシルクロードを旅し、またたく間にインドと中国に伝わりました。そして、多くの中国人がクリスチャンになりました。紀元781年に長安に建てられた記念碑には、ネストリウス派と呼ばれるクリスチングループの宣教活動をたたえて建てられました。ネストリウス派の教理についてはさまざまな議論のあるところですが、この記念碑の存在によって、7世紀ごろまでには中国でキリスト教が広く知れ渡り、皇帝からも公認されていたことがわかります。キリスト教は後に中国で迫害を受け、多くの歴史は失われましたが、近年徐々にその歴史が再発見されつつあります。



中には、当時の日本にも多くのクリスチャンがいたと確信する人たちがいます。しかし、確たる証拠がつかめておらず、ほとんどの歴史家はこれについて懐疑的です。とはいえ、キリスト教の影響が古代の日本にも及んでいたことは確かでしょう。それが直接的に伝わったものか、長安（西安）で修行していた仏教僧が現地でキリスト教についても学んで日本にその教えを持ち帰ったのか、という点についてははっきりしません。1911年には、E.A.ゴードン氏の依頼により、高野山に景教の記念碑のレプリカが建立されました。これにより、真言宗は祖師である空海が景教の影響を受けていたことを認めました。



先ほど、シルクロードはおもに中国の長安（西安）とアンティオキアを結ぶ交易路だと申しましたが、そこにはたくさんの支線があります。この地図を見ていただくと、その支線のひとつが京都まで伸びていることがわかります。



今朝は、歴史背景についてたくさん説明しましたが、これには理由があります。現在の私たちと古代アンティオキア教会との間には、2,000年という時と8,000km以上という距離の隔たりがありますが、そこにつながりや共通点があるということを理解するためです。実際、どこにしようと、どの時代に生きようと、すべてのクリスチャンはイエス・キリストにあってひとつです。このことを念頭において、アンティオキアの教会の始まったころについて、今日の聖書箇所、使徒言行録 11:19-30 から読みましょう。

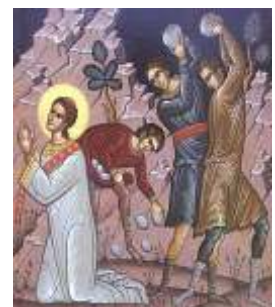
II. 聖書朗読 使徒言行録 11:19-30, (新共同訳)

11:19 ステファノの事件をきっかけにして起こった迫害のために散らされた人々は、フェニキア、キプロス、アンティオキアまで行ったが、ユダヤ人以外のだれにも御言葉を語らなかつた。11:20 しかし、彼らの中にキプロス島やキレネから来た者がいて、アンティオキアへ行き、ギリシア語を話す人々にも語りかけ、主イエスについて福音を告げ知らせた。11:21 主がこの人々を助けられたので、信じて主に立ち帰った者の数は多かつた。11:22 このうわさがエルサレムにある教会にも聞こえてきたので、教会はバルナバをアンティオキアへ行くように派遣した。11:23 バルナバはそこに到着すると、神の恵みが与えられた有様を見て喜び、そして、固い決意をもって主から離れることのないようにと、皆に勧めた。11:24 バルナバは立派な人物で、聖霊と信仰とに満ちていたからである。こうして、多くの人が主へと導かれた。

11:25 それから、バルナバはサウロを捜しにタルソスへ行き、11:26 見つけ出してアンティオキアに連れ帰った。二人は、丸一年の間そこの教会と一緒にいて多くの人を教えた。このアンティオキアで、弟子たちが初めてキリスト者と呼ばれるようになったのである。11:27 そのころ、預言する人々がエルサレムからアンティオキアに下って来た。11:28 その中の一人のアガボという者が立って、大飢饉が世界中に起こると“霊”によって予告したが、果たしてそれはクラウディウス帝の時に起こった。11:29 そこで、弟子たちはそれぞれの力に応じて、ユダヤに住む兄弟たちに援助の品を送ることに決めた。11:30 そして、それを実行し、バルナバとサウロに託して長老たちに届けた。

III. 教え

以前、使徒7章でステファノの石打ちについて読みました。その一部を改めて読んでみましょう。使徒 7:59-60 「7:59 人々が石を投げつけている間、ステファノは主に呼びかけて、「主イエスよ、わたしの霊をお受けください」と言った。7:60 それから、ひざまずいて、「主よ、この罪を彼らに負わせないでください」と大声で叫んだ。ステファノはこう言って、眠りについた。」ステファノの死後、教会に対する迫害が激しくなり、教会は散り散りになりました。しかし、彼らは行った先々でイエスの名について、またその死とよみがえりについて宣べ伝えました。



今日の聖書箇所、使徒 11:19 にこうあります。「ステファノの事件をきっかけにして起こった迫害のために散らされた人々は、フェニキア、キプロス、アンティオキアまで行ったが、ユダヤ人以外のだれにも御言葉を語らなかつた。」初めは、彼らはイエスの福音をユダヤ人だけに語って



いました。おそらく旅する中でたどり着いた会堂を訪ねて語っていたのでしょう。しかし、使徒 10 章に登場するコルネリウスとその家族が救われた一件で、イエスを信じる信仰による救いの良き知らせはすべての人のためにあることを、神はペトロと教会に示されました。

使徒 11:20-21 にはこうあります。「11:20 しかし、彼らの中にキプロス島やキレネから来た者がいて、アンティオキアへ行き、ギリシア語を話す人々にも語りかけ、主イエスについて福音を告げ知らせた。11:21 主がこの人々を助けられたので、信じて主に立ち帰った者の数は多かった。」アンティオキアで、何人かの勇気ある弟子たちが会堂やユダヤ人の集まり以外の場所で伝道しようと決めました。そして、彼らは異邦人にイエスの名を伝えたのです。彼らの勇気は大きな収穫という形で報われました。ギリシャ系の人々は、ユダヤ人よりもイエスに心を開いていることがわかりました。



使徒 11:22 「このうわさがエルサレムにある教会にも聞こえてきたので、教会はバルナバをアンティオキアへ行くように派遣した。」皆さん、バルナバの名を覚えておられるでしょう。パウロがダマスコへの途上で改宗した後、サウロを連れてエルサレムの使徒たちに紹介した人です。当時、弟子たちは皆、サウロを恐れていました。それは、サウロが教会を無情に迫害していたからです。しかし、バルナバはどのようなわけかサウロの中に使徒パウロとなりゆく人を見出しました。バルナバはアンティオキアに行き、神がその人々に恵みを注いでおられるのを見て、ともに喜び、彼らが信仰の歩みを続けるよう励ましました。彼は自分の名にふさわしいことをしました。というのも、バルナバは「励ましの子」という意味があるからです。

アンティオキアの教会は急速に成長し、教えや説教を手伝う人が必要になってきました。バルナバはサウロのことを思い出しました。サウロはユダヤ人の精鋭教師陣によって聖書の教育を受けた人で、奇跡をとおして直接イエスと出会うという経験をした揺るぎない信仰の持ち主でした。

「11:25 それから、バルナバはサウロを捜しにタルソスへ行き、11:26 見つけ出してアンティオキアに連れ帰った。二人は、丸一年の間その教会と一緒にいて多くの人を教えた。このアンティオキアで、弟子たちが初めてキリスト者と呼ばれるようになったのである。」

「このアンティオキアで、弟子たちが初めてキリスト者と呼ばれるようになったのである。」クリスチャンとは、イエス・キリストにつき従う者という意味です。イエス・キリストについて行かないのなら、クリスチャンではありません。このようなことを言うのは、さまざまな誤解があるからです。例えば、アメリカにはたくさん教会があるから、アメリカ人はみんなクリスチャンだ、という類の誤解です。人は出生地によってクリスチャンになるわけではありません。イエスとどういう関係かによるのです。洗礼を受ければクリスチャンになれるという誤解もあります。これも、イエスについて行くという決心をしていないなら、洗礼を受けても濡れるだけです。親がクリスチャンだから自分もクリスチャンだと思う人もいますが、信仰は遺伝しません。ひとりひとりが自分の意志でイエスについていくかを決める必要があります。



教会にいけばイエスについて知るよい機会にはなりますが、イエスを信じるまでは、その人はクリスチャンではなく、教会のお客さんです。今日ここにいる人の中にも、お客さんがいます。その方たちを私たちは心から歓迎しています。お客さんに来てほしいと願っています。お客さんとして来て、イエスのことを学んでくださるのは大歓迎です。また、ここで皆さんにたくさんのお会いがあることも願います。いろんな人が OIC に気軽に来れるようにと思っています。しかし覚えていてください。親がクリスチャンだから、洗礼を受けたから、長年教会に来ているから、といっても、その人はクリスチャンではありません。イエスを主であり救い主として受け入れて、人はクリスチャンになるのです。



いろいろな人が教会に来ます。しかし、イエスを心から信じた日こそ、あなたがクリスチャンになる日です。そして、キリストにある兄弟姉妹とともに教会の一部となるのです。通常の会話では、「教会」という単語は宗教や建物、教派や音楽のジャンルを指します。しかし、聖書でいう教会は常に、イエスにつき従う者の群れを指します。私たちが教会なのです。



私たちが教会だということは、教会がするべきだと私たちが思うことは、実は私たち自身がするべきことです。教会はもっと愛情あふれているべきだと思うなら、私たちがもっと愛を示すべきです。教会はもっと伝道するべきだと思うなら、私たちがもっと人に手を差し伸べなければなりません。教会はもっとささげるべきだと思うなら、私たちがもっとささげる人になるべきです。教会はもっと親しみやすい存在になるべきだと思うなら、私たちがもっと親しみやすく人に接するべきです。私自身が教会なのだとして兄弟姉妹ひとりひとりが気付くと、教会に対する姿勢が変わってきます。2,000年前のアンティオキアの教会でも似たようなメッセージが語られたのではないかと思います。今もなお、私たち自身が教会であることを、自身に言い聞かせて思い起こす必要があります。

教会は建物でしょうか。教会は、神がお住まいになる建物です。しかし、建物という言葉聞いて普通に思い浮かべる種類の建物ではありません。それは、神の民である私たちの内に神が建ててくださる建物です。イエスは皆さんの主であり救い主ですか。あなたはクリスチャンですか。もしそうなら、エフェソ 2:19-22 はあなたのためのみことばです。「2:19 従って、あなたがたはもはや、外国人でも寄留者でもなく、聖なる民に属する者、神の家族であり、2:20 使徒や預言者という土台の上に建てられています。そのかなめ石はキリスト・イエス御自身であり、2:21 キリストにおいて、この建物全体は組み合わされて成長し、主における聖なる神殿となります。2:22 キリストにおいて、あなたがたも共に建てられ、霊の働きによって神の住まいとなるのです。」

2,000年前、神はアンティオキアに教会を建てられました。神は、預言などの霊の賜物を人々に与え、賜物を用いて教会を強めてくださいました。使徒 11:27-28「11:27 そのころ、預言する人々がエルサレムからアンティオキアに下って来た。11:28 その中の一人のアガボという者が立って、大飢饉が世界中に起こると“霊”によって予告したが、果たしてそれはクラウディウス帝の時に起こった。」ここでアガボは具体的な預言を語り、それはある時に現実のものとなりました。

聖霊の賜物にはいろいろあります。コリント第一 12 章に多くが列挙されています。また、他の聖書箇所にもいくつか挙げられています。主はこれらの賜物をご自身の目的にしたがって与えてくださいます。教会の始まった当初から、主はご自身の民に霊の賜物を与えてこられました。そして、今の時代も教会に同じ賜物を与えてくださると私は固く信じています。しかし、いつどこでどの聖霊の賜物を与えるかは、主のみがお決めになることです。そして、すべての賜物には役割があります。

エフェソ 4:11-12 を見てみましょう。「4:11 そして、ある人を使徒、ある人を預言者、ある人を福音宣教師、ある人を牧者、教師とされたのです。4:12 こうして、聖なる者たちは奉仕の業に適した者とされ、キリストの体を造り上げてゆき、」キリストの体とは教会です。そして、賜物の目的は教会を造り上げることです。ここからはっきりとわかるように、教会を分裂させたり傷つけたりする方法で霊の賜物を決して使ってはいけません。また、ここに挙げられた賜物は、神の民を奉仕の働きに備えるために用いられます。

この箇所については、私は現代訳がよいと思いました。エフェソ 4:11-12 (現代訳)「こうして、キリストは、ある人には使徒の賜物を与え、ある人には預言者の賜物を与え、ある人には伝道者の賜物を与え、ある人には牧師、教師の賜物を与えて、教会にお立てになった。それは、すべてのクリスチャンを働き人として訓練し、キリストの体である教会を立派に建て上げさせるため

である。」教会の働きはどこにあるのでしょうか。この壇上でしょうか。講壇でしょうか。違います。私たちが壇上でしていることが教会の働きではありません。それは、教会全体が働きをするために教えて訓練することです。働きは、私たちみんなが一丸となって教会全体によってなされるのです。教会の働きの99%は、この建物の中では行われません。家や職場、学校で皆さんがすることです。働きはこの会堂の中ではなく、外、つまりこの町全体にあるのです。

あなたはイエス・キリストにつき従う者ですか。この問いに「はい」と答えるなら、あなたは教会です。あなたがイエスの愛を人々に分かち合うとき、それが教会の働きです。この扉の向こうには、失われて墮落した世界が広がっています。皆さんがこの扉を出るとき、どうぞイエスの名を携えて行ってください。そしてイエスの愛と恵みあわれみを分かち合ってください。それは簡単なことではありません。私もまだまだ習っているところです。ですから、一緒に習いましょう。簡単ではありませんが、良いことです。神に栄光を帰することです。神はすべての賛美とほまれにふさわしいお方です。



使徒 11:29-30「11:29 そこで、弟子たちはそれぞれの力に応じて、ユダヤに住む兄弟たちに援助の品を送ることに決めた。11:30 そして、それを実行し、バルナバとサウロに託して長老たちに届けた。」この時、アンティオキアの弟子たちは預言に応じてユダヤにいる信徒たちのために援助の品を送ることにしました。これは適切な対応です。というのも、アンティオキアの教会の人々はおそらくユダヤの教会の人々よりもかなり裕福だったと考えられるからです。援助の品を送ったことで、ユダヤの教会のみならず、アンティオキアの教会も建て上げられました。それは、彼らが愛と惜しみなくささげること学んだからです。

IV. 結び

2,000年の時と8,000kmの距離が、私たちとアンティオキアの教会の間にはあります。しかし、彼らの教会は私たちの教会であり、私たちの教会もまた彼らの教会です。というのも、キリストの体はただひとつであり、教会もただひとつだからです。今日、私たちはアンティオキアの教会の忠実な証によって建て上げられました。後の時代になって、ここ大阪にいる多くの兄弟姉妹が、この教会の働きによって建て上げられたと言えることを望みます。主がこの教会で、この町で、この国で、そして世界中で栄光をお受けになるよう、ともに祈りください。祈りましょう。



V. 祈り